



# 小鯖小学校だより 6月号

令和2年 6月1日  
山口市立小鯖小学校

【学校教育目標】 確かな学力と豊かな心を持ち、たくましく生き抜く小鯖っ子の育成  
【めざす子ども像】 困：思いやりのある子 喜：さわやか元気な子 ば：ばっちり学ぶ子

## 学校再開！先生達も燃えています！

校長 高田 修司



5月25日（月）から正式に学校再開となり、20日余りの臨時休業期間を経て、やっと子どもたちの歓声と笑顔が教室に戻ってきました。

いくつかの学校行事の中止や社会見学の延期、夏休みの短縮などが決まり、PTA活動もスタートできていない現状ではありますが、教職員一同、さあ、やるぞ！…という前向きな気持ちで日々頑張っています！

当初の新型コロナウイルス感染拡大期には、安心安全の確保や感染予防のためなら多少やり過ぎてもやむを得ない？という「世間の消極的同意」も背景に、「感染者叩き」や「他県ナンバー狩り」などの「排除の論理」が先行してしまいましたが、事態が徐々に落ち着いてくるにつれ、世間に「客観的な判断力」や「他者を思いやる気持ち」が少しずつ戻ってきたような気がして、正直少しほっとしています。

そしていよいよ、社会全体が長期間にわたりウイルスと共に生きていかねばならない、予防は大事だが社会生活（経済活動）との兼ね合いも大事、という考えも世間に広がってきたので、それらを踏まえて「新しい生活様式」も提唱されました。

ただ、個人(学校)に求められている「原則」は、基本的には大きく変わりません。

○手洗いや咳エチケット、換気、といった基本的な感染症対策を日常化する

○「3つの密」を徹底的に避け、身体的距離を確保する

「3密」に関して、特に学校現場においては、「ん？どうすべきか？」と、判断を迫られる場面が日々あります。

例えば…、転んでわんわん泣いている子どもがいたとします。

先生は、身体的距離を守って、「密接」を避け、離れて、慰めたり事情を聞いたりするべきなのでしょうか？

いや…もちろん「よしよし、どうしたの？」とそばで問いかけて聴いてやります。

本能的にそうしますし、敢えて分析するなら、密接のリスクより、そばで聴いてやらないことで生じる心のリスクの方が大きい、と経験上判断するからです。

ただし、もちろん先生も子どももマスクを着用しています（＝密接リスクの軽減）…と、このような感じで、常にバランスを考えながら教育活動を展開し、やるべきこと、できることを模索しつつ、感染予防に努め、子どもたちの学びを保障していきたいと小鯖小学校では考えています。

皆様のご支援ご協力を、あふれる「愛情」と共に、よろしくお願いいたします！

### <お知らせ>

市からの依頼があり、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、しばらくの間は自治会回覧を見合わせることにしました。

本校ホームページ上や小鯖地域交流センターには置いてありますので、ご利用ください。

